

現場に密着した技術セミナー 12月にも開催

地域対応の耐水防湿対策 輸入窓の取付け方

昨年9、10月に全国8都市で開催された輸入窓セミナーは、せっかくの申込をお断りするケースがでるほどの人気となり、各会場も熱心な参加者に恵まれた。その後、同セミナーの開催を希望する声が全国各地から寄せられ、4月における8都市での追加開催となった。

輸入窓については、そのデザイン性や機能性から消費者の人気も高く、ニーズが高まる一方で、現場施工やメンテナンス等でさまざまな問題が挙げられていた。そのような現場の諸問題を解決しようと州政府が主催したのがこの技術セミナーである。

講習会場では、構造壁のモデルを用意し、ドリルでねじ止めをしながら実際に窓を取付けながら説明。追加テーマとなった胴縁通気工法での施工方法も紹介された。防水紙の取付けも丁寧に丁寧に行なわれ、防水・防湿対策の基本が丁寧に実演された。

今回のアンコールセミナーでは、特に前回よりも参加者からの質問が多く、しかも現場での経験に基づいた内容がほとんどだった。

その一例を回答と一緒に紹介する。

1) タイベック型ラップとアスファルトではどちらが良いのか。(宇都宮) - - (答) 最近ではアスファルトが見直されている。タイベックは時間がたつとスポ

あるのか。(千葉) - - (答) 基本的にはメーカーもしくは販売代理店によって異なる。あるメーカーは窓のみの取り替えにも対応。また、別な会社はフルユニットでの交換を徹底。普及サイズでなら、



在来の壁に輸入窓を取り付けたところ

多くが在庫しているとのこと。ただし並行輸入品については、対応不可の場合が多い。

4) 耐久性は、ビニール製とアルミクラッドでは、どちらが優れているのか。(鹿児島) - - (答) 一般的には、ビニール性のほうが耐久性にすぐれている。雨や水分など耐水性はビニール製。熱にはアルミクラッドが優れている。

5) 今後、準防火地域での認定取得の予定はあるのか。(神戸) - - (答) 各社、努力をしているが、認定取得の明確なメドはなし。

さらに講師のジョンソン氏はコンピュータを使って施工ポイントを写真入りで紹介、日本での施工経験豊富なチェニー氏は、窓ユニットを使っての実践的な説明を展開。窓協会のキャンベル氏には期待の高まる相互認証制度についての質問が寄せられた。

人気を集める輸入窓に対し、取付けノウハウに磨きをかける工務店が多数参加した全国セミナー。現場監督が時間のやりくりをつけて参加するなど、テーマの実践性に呼応する参加者に州政府はじめ多くの関係者が、この種のセミナーの必要性を改めて認識していた。

[主催] ワシントン州通商経済開発局
全米林産物製紙協会

[共催] 米国大使館(農務部、商務部)
在大阪・神戸米国総領事館
在福岡米国総領事館

輸入窓・ドア技術セミナー 在来工法での取付け方

(12月7日～10日、東京・北九州・広島・大阪)

ツーバイフォー住宅で盛んに使われていた輸入の窓・ドアが、在来工法住宅でも広がりを見せてきていることから、ワシントン州政府では在来工法に合わせた輸入窓・ドアの技術セミナーを開催することになった。

「地域対応の耐水・防湿対策」という前回のテーマから、「日本の主要工法への利用拡大」へと、その実践性を高めた内容になっている。6時間にわたる講義では、会場で実際に取付け方法を実演してもらおうなど、わかりやすさに工夫がこらされている。また、さまざまな現場での実例をコンピュータによるプレゼンテーションでも紹介。現場監督や大工さんがすぐにでも使える実践的なノウハウは、前回同様、今回もたっぷり用意されている。

テーマ内容

- ・製品知識の整理・確認
 - ・標準仕様とオプション/ 枠材の寸法
 - ・開口部の寸法と額縁の収め方
 - ・標準品・特注品のオーダー方法
 - ・開口部の調整方法
 - ・雨戸付の窓・ドアの正しい取付け方法
 - ・新しい仕上げ方法の紹介
- 今回のセミナー開催にあたっては、ワ

シントン州政府とA F & P A (全米林産物製紙協会、本部：米国ワシントンDC) が協力して、各工務店の現場15カ所以上を視察して回った。現地での実態調査を踏まえての講義内容となっており、在来工法住宅を対象にした本格的な技術セミナーとして徹底した準備が進められてきた。

輸入窓・ドアについては、そのデザイン性や品質、価格などの点から採用したいというニーズが工務店のみならず施主サイドからも出てきており、商品知識や取付け方法などについての関心は、工法を問わず広がってきている。

国内製品に慣れたビルダーにとっては、勝手の違う面もあるだろうが、より良い住宅作り、また競争力のある住宅が求められている昨今の住宅市場では、輸入窓・ドアをマスターしておくことは大きな利点につながるはずだ。

詳細な日程は11月中旬に発表。問い合わせはワシントン州政府日本事務所まで。



在来工法における輸入ドアの内部トリム



熱心にセミナーに聴講する参加者



「輸入窓の取付け方・地域対応の耐水防湿対策」の講師デビッド・チェニー氏

ンジのようになり、水分を吸収しやすくなる場合がある。また、アスファルトのが安く、防水性に優れているようだ。

2) 胴縁材の厚さはどのくらいにすれば良いのか。(浦和) - - (答) サイディングの重さや硬さにもよるが19ミリを推奨。12ミリでも必ずしも悪いとは言えない。

3) ガラスが割れた時、どのように対処したら良いのか。また代替えは在庫して



4月に開催された輸入窓の取付け方セミナーの中のメーカーによるパネルディスカッション風景



ENERCEPT, INC.

エナセプト超高温断熱 建築システム

サンドイッチパネルは、EPS (発泡ポリスチレン) をOSB (構造用面材) で両面からプレス成形したものです。外部からの熱・湿気の流入を防ぎ (高密度・高断熱)、計画換気をすることにより、いつでもクリーンで快適な環境を提供します。そして、空調エネルギーコストは2×4工法の半分以下に抑えることができ、施工面においても、構造・断熱・下地を兼ねたパネルにより、工期短縮と熟練技能を必要としない、高い施工性を実現した省エネ住宅です。在来工法、2×4工法に次ぐ第三の工法として認められた次世代の工法です。

また、確認申請は2×4工法で申請でき、住宅金融公庫もご利用できます。



ENERCEPT, JAPAN

〒110-0015
東京都台東区東上野3-4-4 酒井ビル3階
テクニカル アドバイザー 廣田 高芳
TEL 03-3835-1901 FAX 03-3839-4066

ENERCEPT, INC.

3100 9th Avenue Southeast
Watertown, South Dakota 57201
TEL 605-882-2222 FAX 605-882-2753
http://www.enercept.com